

シンポジウム

リカバリー志向サービスへの転換

～当事者参加による社会的意思決定PART3～

シンポジスト：市川左千子（埼玉県精神障害者団体連合会ポプリ）
松本真由美（日本医療大学）
矢部滋也（一般社団法人北海道ピアサポート協会）
伊藤順一郎（メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ/NPO法人コンボ）
指定発言者：原田幾世（日本ピアスタッフ協会・会長）
コーディネーター：大島巖（NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボ）
宇田川健（NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボ）

今年のシンポジウムでは、テーマが「リカバリー志向サービスへの転換 ～当事者参加による支援サービスの意思決定 PART3～」ということで、このシリーズの第3回目になりました。

コーディネーターとして、大島巖さんと宇田川健が出ました。

シンポジストは日本医療大学の松本真由美さんが、精神の当事者が地方の精神保健福祉審議会に参加した場合の問題点や傾向、特に精神障害者は空気を読んで、発言してしまう傾向があることなどを発表しました。

埼玉県精神障害者団体連合会ポプリの市川左千子さんからは、精神保健福祉の当事者として地方の審議会に参加した際に、いろいろな立場の人がいる審議会に他種の障害者の方々の中で精神障害者としての立場を守りつつ、互いに相手の障害を理解しながら発言することの難しさを発表しました。

北海道ピアスタッフ協会の矢部滋矢さんからは、もともと介護福祉士やソーシャルワーカーの資格を持っていた自分が、発病後、ピアサポート専門員研修を受けたきっかけから自らピアサポートグループを立ち上げ、一般社団法人北海道ピアサポート協会の中に、事業所を立ち上げた経緯などを発表していただきました。

メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれとコンボに所属する伊藤順一郎さんには、シェアードディンジョン・メイキングのシステムを説明していただき、特にその中でもピアスタッフの重要性についてお話ししていただきました。

会場からは様々な質問や意見が出ました。一つの傾向として今年のキーワードは垣根を壊すということが出ました。

また、この場（リカバリー全国フォーラム）に参加できない、自宅に引きこもっている方やご家族、入院されている方やご家族をどうするのかという無視できない問題提起が出ました。

そのような方のためにも、社会的意思決定には当事者参加が必要であり、また、この場に参加された人たちひとりひとりが、具体的にこつこつと垣根を取っ払う活動を地元ですることが必要であるというまとめになりました。